

小幡緑地本園のマメナシ自生地の保全と保護の現状

石原 則義

愛知守山自然の会 〒464-0096 愛知県名古屋市千種区下方町七丁目3番地

Conservation of a natural habitat of *Pyrus calleryana* in the Obata Green (Main Park), Nagoya, Japan

Noriyoshi ISHIHARA

7-3 Shimokatacho, Chikusaku, Nagoya, Aichi, 464-0096, Japan

Correspondence:

Noriyoshi ISHIHARA E-mail:noriyoshibob@yahoo.co.jp

要旨

筆者らが所属する愛知守山自然の会（以下、当会とする）は、小幡緑地本園を中心として活動する自然環境保護団体であり、活動の1つにマメナシ (*Pyrus calleryana* Decne.) の保全・保護がある。調査地である小幡緑地本園は、名古屋市守山区牛牧に所在し、白沢川に注ぐため池である竜巻池の南池畔と東池畔、緑ヶ池の西・南・東池畔などにマメナシが自生している。当会では、小幡緑地本園でマメナシの保全・保護活動をし、個体数、幹周、樹高、環境の実態把握に努めてきた。本報では、小幡緑地本園のマメナシ自生地の保全と保護の現状について報告するとともに、マメナシの発見の歴史も記録として残す。

マメナシとの関わり

筆者らが所属する愛知守山自然の会（以下、当会とする）は、小幡緑地本園を中心として活動する自然環境保護団体であり、活動の1つにマメナシ (*Pyrus calleryana* Decne.) の保全・保護がある。当会が設立した2004年（平成16年）8月以降、マメナシにこだわり続け、今日まで活動の一環として、保全・保護・調査をすすめてきた。2005年（平成17年）2月から、三重県多度町（現桑名市）八壺谷のマメナシ自生地の保全活動が現地住民有志のボランティア活動で始まるのを受けて、当会からも保全活動に有志で参加した。また、2009年（平成21年）12月20日（日）には、多度公民館講堂で桑名市教育委員会主催のシンポジウム「生物多様性からイヌナシの保護を考える」で、「尾張地域におけるマメナシの分布」の事例報告をした（石原，2009）。

現在、当会の設立から9年が経過し、2014年（平成26年）8月には、満10年を迎える。そこで、2011年（平成

23年）からはマメナシの再調査をしている。マメナシの自生地は、愛知県・岐阜県・三重県で約80箇所を数えるが、まだ訪れていない自生地は、10箇所程度にとどまる。毎年の調査で、新たなマメナシの発見やマメナシの生育情報などもあることから、満10年を迎えるまでには、全ての自生地でマメナシの調査を終えたい。

本報では、当会の設立当初からのフィールドであり、天然更新をしている小幡緑地本園のマメナシ自生地の保全と保護の現状について報告するとともに、マメナシの発見の歴史も記録として残したい。

マメナシとは

マメナシは、湧水のあるため池周辺などに生育するバラ科ナシ属の落葉小高木である。ベトナム北部、中国大陸、朝鮮半島中部に分布し、日本では愛知県と三重県に生育しているが、分布の中心は名古屋市内やその近郊の丘陵地である。花柱は2~3個、果実はほぼ球形で直径約

1cmの実をつける。刺の多い木であるため、邪魔者扱いされ、伐採されることもある(芹沢, 2003)。また、三重県では、県の文化財として指定された当時の名称に従いイヌナシを用いている(桑名市教育委員会, 2010)。

本種は、1902年(明治35年)に三重県三重郡海蔵村(現四日市市)東阿倉川で小学校教諭の植松栄次郎、寺岡嘉太郎、今井糸蔵の三人によって発見された(四日市市, 東阿倉川イヌナシ自生地, <http://www5.city.yokkaichi.mie.jp/menu68174.html>, 2013年7月23日確認)。その後、1908年(明治41年)4月、東京帝国大学の植物分類学者、牧野富太郎によって新種として植物学雑誌に発表された(Makino, 1908)。現在の学名に採用されている種小名は、本種のタイプ標本を採集したフランス人伝道師カレリ(J. M. M. Callery)の名にちなんでいる(相賀, 1989)。また、本種は東海丘陵要素と呼ばれる伊勢湾周辺を中心として生育する植物であり、愛知県レッドリストでは絶滅危惧IA類、名古屋市レッドリストでは絶滅危惧IB類に位置付けられている(名古屋市, 2004; 愛知県環境調査センター, 2009)。

筆者らの観察によると、マメナシの花は、桜の花のピークが過ぎた頃に満開となり、3月下旬から4月上旬にかけて、桜によく似た、それよりもやや透明感のある清楚な白い花を咲かせる。また、鳥が好んで食べないことから種子の拡散が少なく、自生地は拡がらないようである。当会の調査によると、マメナシの日本における自生地は愛知県、三重県以外にもあり、岐阜県海津市浄水公園近辺の養老線高架橋脇では樹高11m・幹周120cmのマメナシを確認している。

さらに、岐阜県のレッドリスト(植物編)が改訂され、マメナシはI類に位置づけられた(岐阜県, 岐阜県レッドリスト(植物編)改訂版, <http://www.pref.gifu.lg.jp/kankyo/shizen/redlist-shokubutu-kaitei.data/redlist-kakutei.pdf>, 2013年7月23日確認)。

国内におけるマメナシの現状

現在、国内における自生地は、約80箇所、成木(樹高1m以上)の個体数は、460本程度で、多くの生育地では単木で生育しているのが実状であるが、本種を含むバラ科植物は自家不和合を示す種が多く存在し、孤立木では種子による繁殖が不可能になる(向井, 2010)。

自生地として個体数が一番多く生育している守山区の蛭池は、公園として管理されている。林床を見る限り、過剰な下草刈りがされていることから、実生や幼木が育っていない。そのため、マメナシを保全・保護する人がいない限り、天然更新は困難であると考えられる。多くの公園では、現在の木は守られているものの、次世代を担う幼木や実生が育つ環境にはなっていない。これらのことから、将来に向けてマメナシの存続は極めて危機的な状況にある。

当会では発足以来、小幡緑地本園だけは天然更新させる意気込みで保全・保護活動をし、マメナシの個体数、幹周(胸高)、樹高、環境の実態把握をした。また、小幡緑地周辺にある風越池(守山区)と滝の水池(尾張旭市)でも保全活動を続けた。

愛知県・岐阜県・三重県のマメナシの自生地の現地調査は、当会会員の丹下正良氏がマメナシ担当として個人の努力として行ってきたため、自ずと限界もあった。また、記録したデータにおいてもその後の消長が確認不十分な箇所があった。マメナシの保護運動、関心の広がり、移植や植栽の拡大の中で、本来の生育場所と植栽の実態を可能な限り把握する必要があった。加えて当会内での共有化はもとより、自生地の行政や管理者、自然保護団体、個人の保護・保全運動の発展の参考とするためには、実態を可能な限り再調査をする必要があった。

そこで、2011年(平成23年)年9月からは、当会でマメナシ調査ツアーを組織して再調査を実施し、個体数や個体の生育状況を確認した。現地未確認も含め、三重県四日市(図1)・桑名市(図2)・員弁郡東員町(図3)・鳥羽市・伊勢市、岐阜県海津市南濃町、愛知県小牧市・犬山市(図4)・尾張旭市・長久手市・瀬戸市・日進市・知多市(図5)・半田市・西尾市(図6)の現地に出掛けて生育状況を調査した。現在は、現状の調査結果をとりまとめ中である。

小幡緑地本園におけるマメナシの現状

小幡緑地本園のマメナシ自生地は、名古屋市守山区牛牧に所在する。白沢川に注ぐため池である竜巻池の南池畔と東池畔、緑ヶ池の西・南・東池畔などにマメナシが自生している。竜巻池の東池畔の自生地の西側には水が浸み出していて貧栄養の湿地帯が広がっており、食虫植



図1. 三重県四日市市東阿倉川のマメナシ



図4. 愛知県犬山市羽黒坂野邸のマメナシ



図2. 三重県桑名市多度町八壺谷のマメナシ



図5. 愛知県知多市稲荷神社のマメナシ



図3. 三重県員弁郡東員町鳥取神社のマメナシ



図6. 愛知県西尾市鶴城公園のマメナシ

物であるトウカイコモウセンゴケ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、東海丘陵要素植物のクロミノニシゴリの群落があり、3本のマメナシが観られる。

小幡緑地本園内には、成木37本（表1、図7）が生育

し、スポーツセンター東園路脇・親水広場北護岸・ゲートボール場周辺で成木5本（No.1～No.5）（図8）、竜巻池の南池畔・東池畔・東池畔湿地・東園路脇・せせらぎトンボ池で成木15本（No.6～No.20）（図9）、緑ヶ池の南池

表1. 小幡緑地本園 マメナシ成木調査結果

生育地	No.	樹形	樹高 (m)	幹周 (cm)	径 (cm)	多幹個別幹周 (cm)				
						1	2	3	4	5
北入口付近	1	単	9	143	46					
親水広場北護岸	2	双	10	59	19	54	30			
	3	単	9	90	29					
ゲートボール場周辺	4	双	8	140	45	105	95			
	5	多	9	111	35	81	63	15		
南池畔	6	多	2	13	4	9	7	2		
	7	双	1.5	9.8	3	8	6			
	8	単	1.6	5	1.5					
	9	単	1	7	2.2					
	10	多	6	74	23	50	22	19	14	
	11	多	5	38	12	27	17	5.5	4.5	
竜巻池 東池畔	12	単	8.5	59	19					
	13	単	8.5	69	22					
	14	双	8.5	86	27	63	60			
	15	単	2	6.5	2.1					
	16	株	2.7	23	7	10	9	7	6.5	
東池畔湿地	17	株	1.8	20	6	8	7.5	6.5	6	
	18	株	1.8	33	10	14	11	11	11	
東遠路脇	19	双	10	118	38	90	79			
せせらぎトンボ池	20	株	2	14	4	6	5	4.5	4.5	
	21	単	5	35	11					
南池畔	22	双	5	61	19	65	22			
	23	単	4	41	13					
	24	多	7.5	80	25	43	36	18	17	
	25	双	7.5	81	26	66	50			
	26	単	8.5	85	27					
	27	単	5	36	11					
緑ヶ池	28	多	6	55	17	32	28	18		
	29	単	5.5	33	11					
	30	双	2	13	4	14	5			
南遠路脇	31	単	1.5	6	2					
西池畔	32	多	10	158	50	91	68	67		
	33	多	7.5	225	72	98	81	77	65	
東池畔	34	双	6.5	39	12	34	22			
	35	単	2	12	4					
駐車場東樹林	36	単	2	5	2					
水生園	37	単	1	3	1					

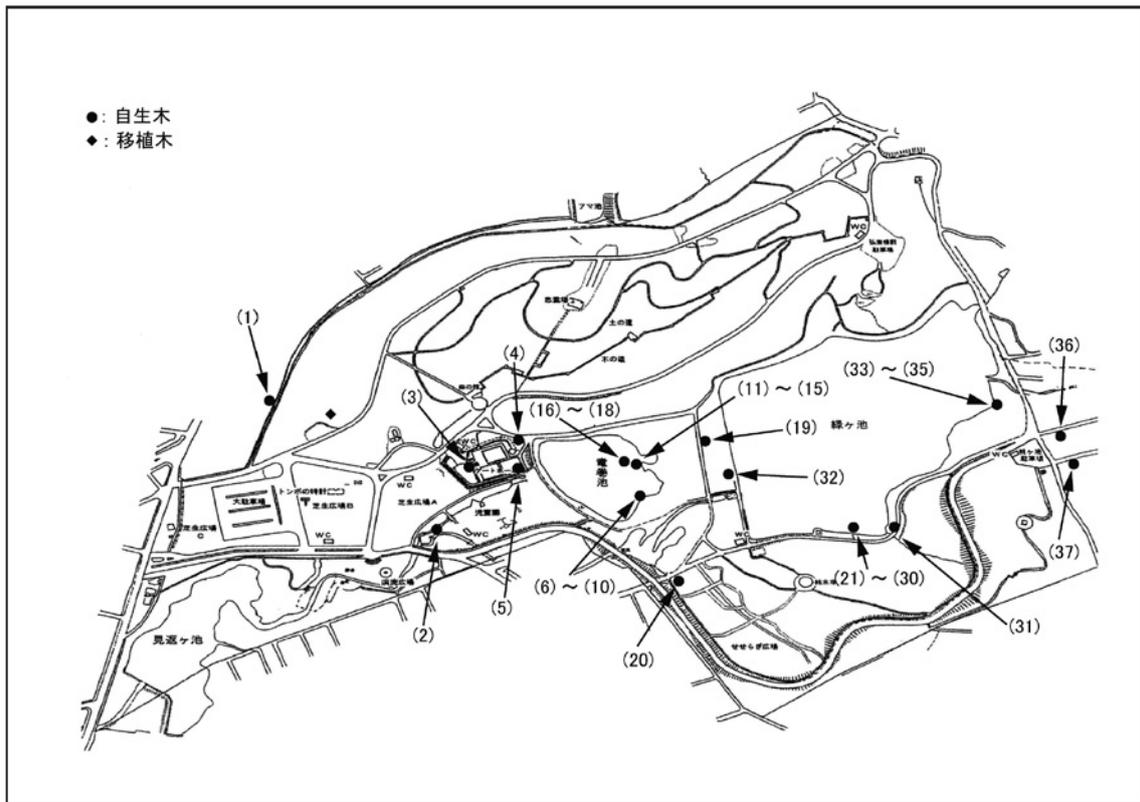


図7. 小幡緑地本園のマメナシ分布

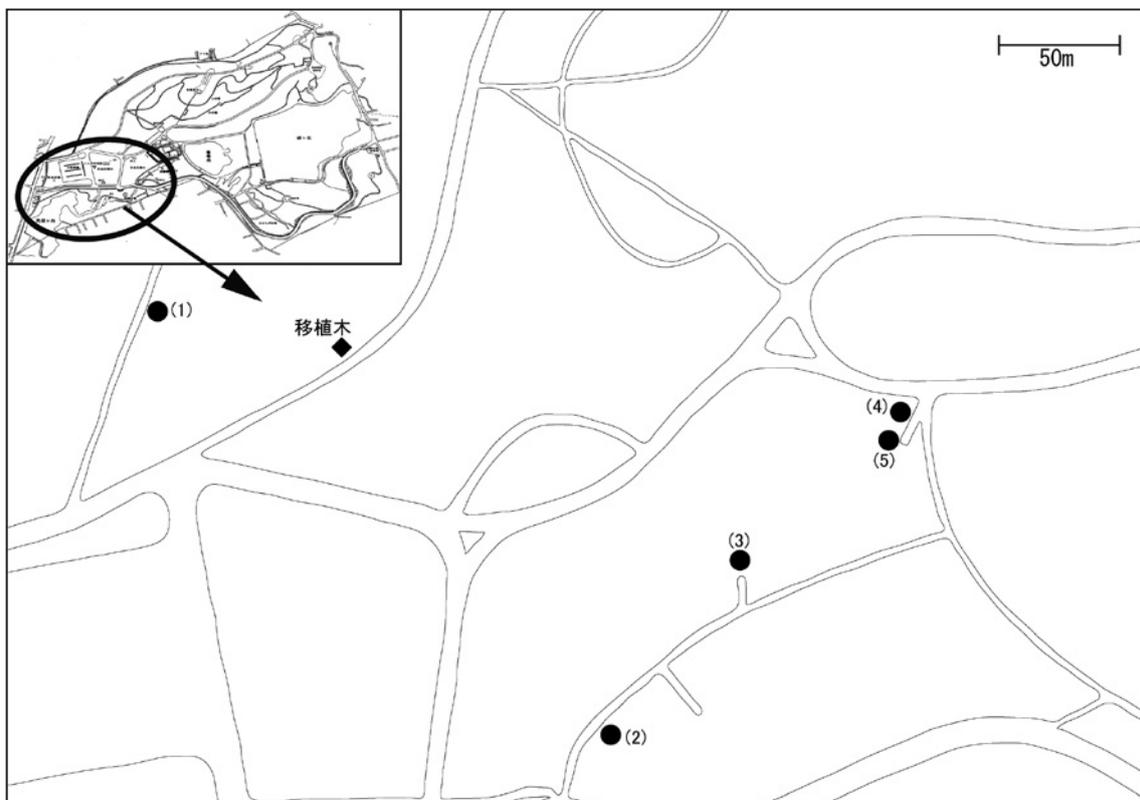


図8. スポーツセンター東園路脇, 親水広場北護岸, ゲートボール広場

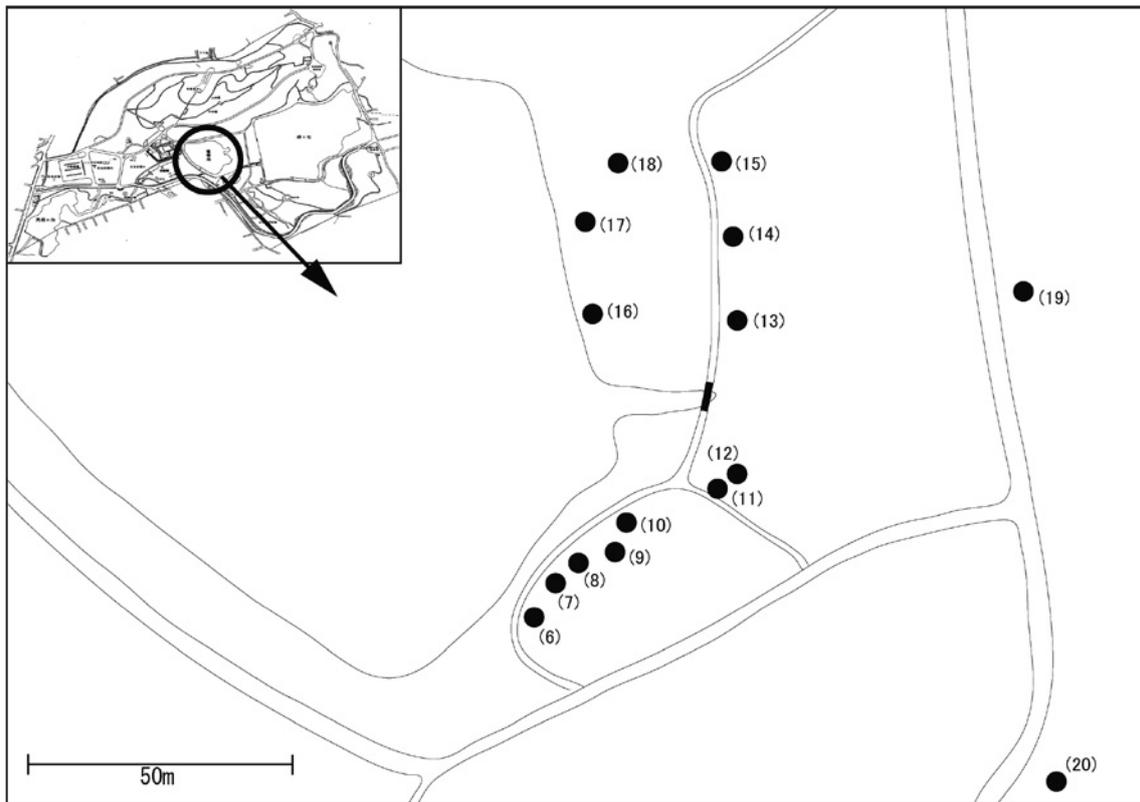


図9. 竜巻池南池畔・東池畔・東池畔湿地・東園路脇, せせらぎトンボ池

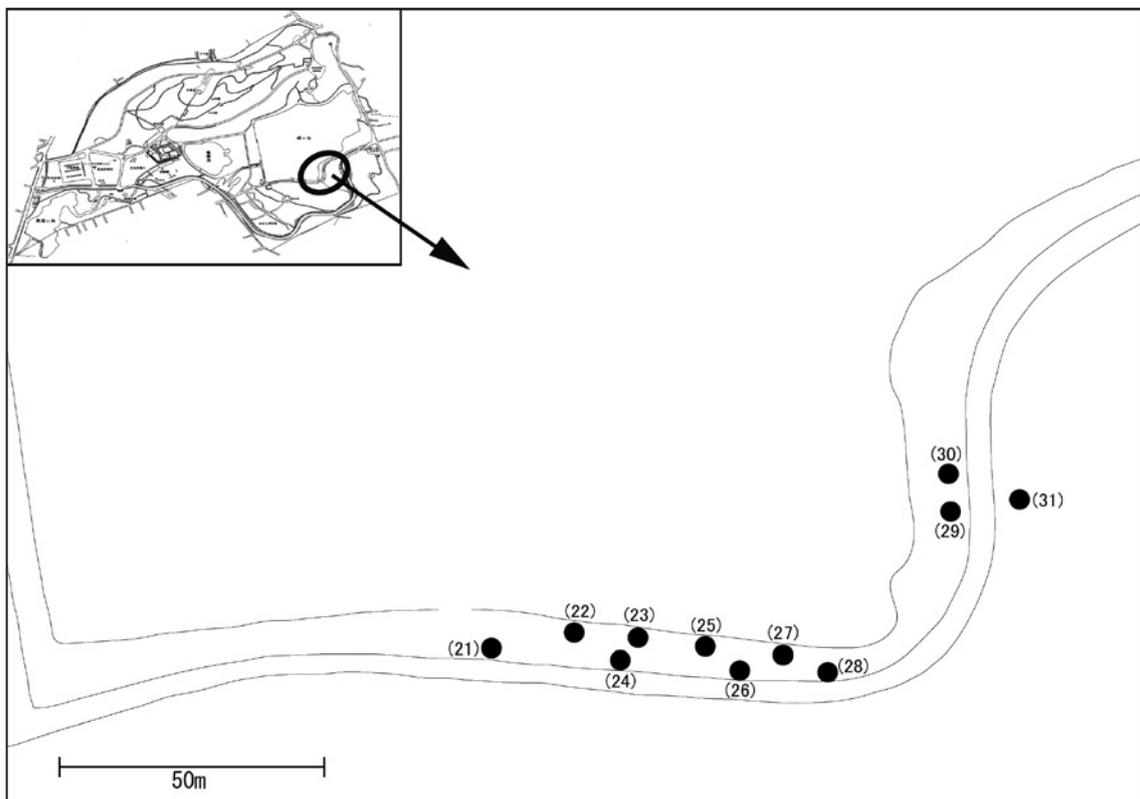


図10. 緑ヶ池南池畔・南園路脇

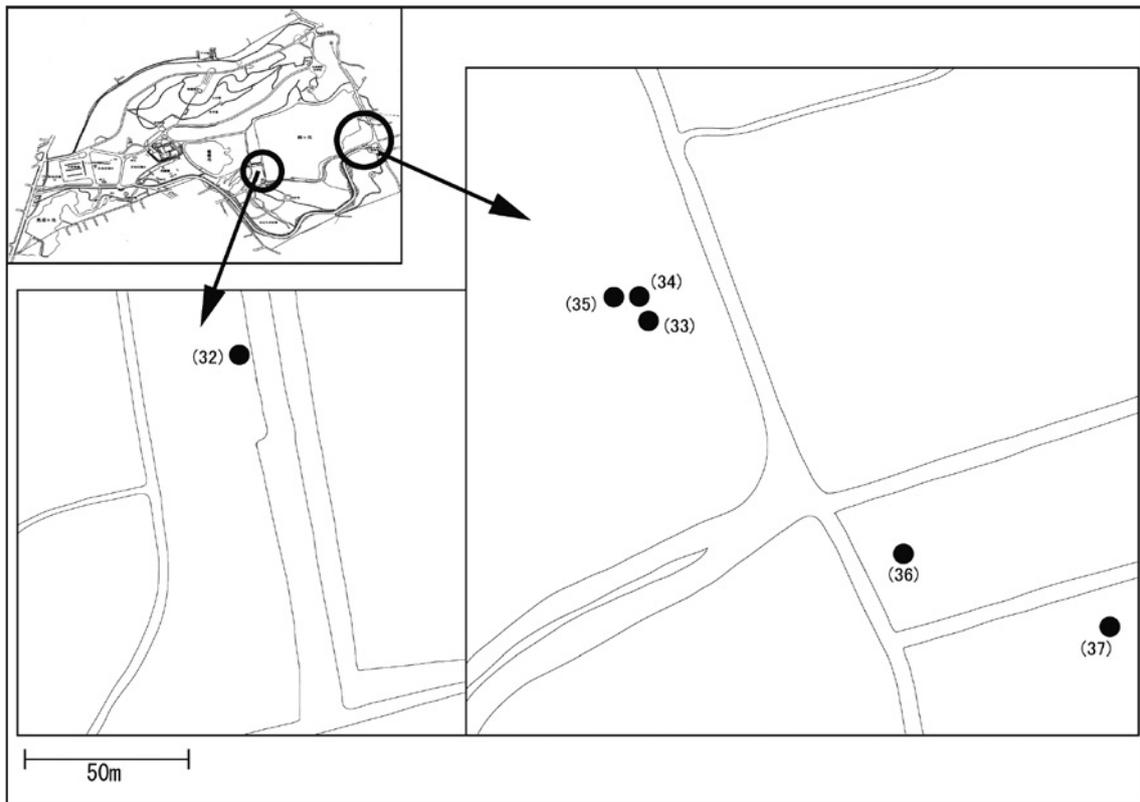


図11. 緑ヶ池西池畔・東池畔，駐車場東樹林，水生園

畔・南園路脇で成木11本（No.21～No.31）（図10），緑ヶ池の西池畔・東池畔・駐車場東樹林・水生園で成木6本（No.32～No.37）（図11）を確認している。

そのため、小幡緑地本園はマメナシ自生地として大きな群落であり、マメナシの天然更新がなされている場所でもあることから、名古屋市のマメナシの保護上、極めて重要な自生地であると言える。

小幡緑地のマメナシ自生地の保全と保護活動

名古屋市守山区では、マメナシが現四日市市の東阿倉川で発見されてから71年後の1973年（昭和48年）9月に、県立千種高校英語教諭大岡幸雄が守山大森八竜でマメナシを発見され、1974年（昭和49年）2月には、大森御膳洞の蛭池（弥吉池）でマメナシの自生地の大群落を発見された（大岡，私信）。同年3月，折しも守山大森八竜で，自然保護が公益優先かで，清掃事務所建設をめぐる名古屋市と湿地を保存しようとする学者らの意見が真っ向から対立していた（自然の宝庫つぶすな，朝日新聞，1974年3月14日）。同年3月には，大森御膳洞の蛭池に，マメ

ナシの大群落発見の記事が載る（大発見！マメナシの群落，中日新聞，1974年3月23日）。同年7月28日，大森八竜の町内会の集会で大岡幸雄氏の講演があり，住民を巻き込んだ蛭池の公園化に反対する運動が始まった。この運動によって市の環境整備事業計画が見直しされることになった。

1992年（平成4年）2月，名古屋市が1991年（平成3年）暮れから行った守山区大森御膳洞蛭池の環境整備工事により，マメナシ群生地が破壊されることを懸念した大岡幸雄氏や植物学者の声が新聞記事に載った（危うしマメナシ群生地，中日新聞，1992年2月17日）。

2003年（平成15年）4月から2004年（平成16年）6月まで，名古屋市水辺研究会による守山区内のマメナシ調査が行われた。また，2004年8月28日には，愛知守山自然の会を発足した。これ以降，愛知守山自然の会でもマメナシ調査を行っている。そして，2012年（平成24年）1月15日には，守山区でマメナシを発見された大岡幸雄氏をお招きして講演会を行った。

当会では，設立以後，毎年4月の定例の自然観察会で，



図12. 名古屋市守山区小幡緑地本園スポーツセンター東園路脇シンボルツリーのマメナシ



図15. 名古屋市守山区小幡緑地本園緑ヶ池南池畔の揭示板



図13. 名古屋市守山区小幡緑地本園スポーツセンター東園路脇シンボルツリーのマメナシの花



図14. 名古屋市守山区小幡緑地本園竜巻池南池畔・保全作業

マメナシを取り上げ、これまでに9回の観察会を行っている。また、2012年4月8日には、なごやの森づくりパートナーシップ連絡会主催のフィールド訪問が行われ、『マメナシは、“地域の宝”である。大切に守り育てなければならない。』と訴えた。

毎年4月の定例会に向けては、スポーツセンター横のシンボルツリーのマメナシ（図12、13）2002年2月27日に下志段味よりウンヌケ湿地に移植されたマメナシ、ゲートボール場周辺のマメナシ、竜巻池池畔、緑ヶ池池畔のマメナシの下草刈りを3月から数回行い、天然更新をしている実生や誤伐防止のため幼木にマーキング棒を施してあるところを来訪者に観ていただいた。

2011年（平成23年）度からは、4月のマメナシの観察会の前だけではなく、年間を通じて、定例作業日に、マメナシ班として、下草刈り、マーキング作業をすることになった。自生地管理対策としては、管理者と連携し、自生地保護、普及啓発をはかるために、行政（小幡緑地管理事務所、守山土木事務所）との定期的な話し合いの中で『マメナシのために自生地揭示板の設置、踏圧防止のため自生地をロープ柵で囲うこと、マメナシへの日照を良くするためにコナラなどの間伐および環境整備時の誤伐防止のために管理者・実施業者と事前現場説明を行うこと』を調整した。

その結果、自生地には、揭示板（図15）や保護柵が設置され、草刈りを頻繁に行うことによって日照が良くなり、実生や幼木が確実に増えてきた。折しも、竜巻池では、2012年（平成24年）11月、なごや生物多様性保全活



図16. 名古屋市守山区風越池のマメナシ



図17. 名古屋市守山区小幡緑地本園ウンヌケ湿地・マメナシ苗床予定地

動協議会（当会も協議会に加入）による、池干しが行われた。その後、2013年（平成25年）4月に、なごや生物多様性保全活動協議会が、新しい案内看板を作成し、当会も案内看板の設置に参加した。また、この案内看板にはマメナシの写真も掲載されている。

おわりに

当会の設立当初から、マメナシの保全活動は、会の活動の一環にはなっていたものの個人の活動にまかされていることが多かった。そのため、2011年（平成23年）度からは、幹事会で、会の4つの活動の1つとして位置づけ、年間を通して、小幡緑地のマメナシの保全・保護活動をするようになった。さらに、周辺の風越池（図16）（成木約10本）、滝の水池（成木約20本）もマメナシ班で保全することになった。本園内に掲示板は設置された

ものの、保護柵は仮設のため、2013年（平成25年）度からは、マメナシの保護柵を樹脂木で順次設置している。それだけでなく、ウンヌケ湿地のある移植木の西側にマメナシの苗床をつくる用地を小幡緑地管理事務所にお問い合わせをして確保し、次世代に向け、小幡緑地本園の実生から育てた幼木を移植し、育てるための仮囲いをした（図17）。

各地のマメナシについて、地元のマメナシには関心があり、保全・保護活動をしているところもあるが、まだ多くない。また、2011年（平成23）年から始めたマメナシの再調査は今年で3年目となり、マメナシの自生地約80箇所のうち70箇所の調査を終え、未確認の自生地は10箇所程度である。2014年（平成26年）8月には当会設立10周年を迎えることから、愛知県・岐阜県・三重県のマメナシの調査をそれまでには終えたい。そして、10周年の集大成として、その調査結果を冊子にまとめる予定である。マメナシは、地域によっては国の天然記念物ということもあり、四日市市の東阿倉川などでは地元の小・中学生がマメナシの下草刈りの手伝いをしている。また、瀬戸市などではマメナシを授業に取り入れている小学校もある。

現在、小幡緑地本園の地域の小学校から出前授業に呼んでいただいていることもあり、マメナシにそれなりの関心はあると思われるが、学校全体の位置づけにはなっていない。そのため、当会として、どう学校を巻き込んでいくかが、今後の課題となる。

謝辞

本原稿をまとめることができたのは、愛知守山自然の会の丹下正良氏および古川則夫氏、五十川暉夫氏を中心とした長年に渡るマメナシの業績があったからである。同会員の三宅正男氏には、大岡幸雄氏の講演を通じて、マメナシの発見の歴史を学ぶ機会をあたえていただいた。また、マメナシが縁で繋がり、保全・保護・調査を通じて支えていただいた方がいたからこそここまですることができた。これも偏に、当会の皆さん、小幡緑地管理事務所、守山土木事務所など、マメナシの保全・保護・調査を支えていただいた方々のお蔭である。深く感謝する。

最後に、本稿を発表する機会を与えていただいた「な

ごや生物多様性保全活動協議会」の皆さん、また、書き方の指導をしていただいた「なごや生物多様センター」の職員の皆さんにお礼を申し上げます。

引用文献

- 相賀徹夫. 1989. マメナシ, 園芸植物大辞典3巻, pp.434. 小学館, 東京.
- 愛知県環境調査センター (編). 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2009—植物編一, pp.94. 愛知県環境部自然環境課, 愛知.
- 石原則義. 2009. 尾張地域におけるマメナシの分布, pp.15-17. 桑名市教育委員会, 三重.
- 桑名市教育委員会. 2010. 多度のイヌナシ自生地保護計画, pp.1. 桑名市教育委員会, 三重.
- Makino, T. 1908. Observations on the flora of Japan. Bot. Mag. Tokyo 22: 65-67.
- 向井譲. 2010. 周伊勢湾地域におけるイヌナシの遺伝的考察, pp.26-27. 桑名市教育委員会, 三重.
- 名古屋市. 2004. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2004—植物編一, pp.130. 名古屋市環境局環境都市推進部環境影響評価室, 愛知.
- 芹沢俊介. 2003. マメナシ, 矢原徹一 (監修), レッドデータプランツ, pp.279. 山と溪谷社, 東京.